

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（桑名高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から 強くはばたく 人づくり」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い歴史と伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>★桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>★強くはばたく</p> <p>② 生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p>★人づくり</p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 学力・クラブ活動・楽しい学校・進路実現</p> <p>○保護者 社会性・安心安全・学力・クラブ活動・進路実現・社会的自立・楽しめる学校・一人ひとりを大切にする学校</p> <p>○地域社会 地域の誇りとなる、そしてリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>○大学 知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成</p> <p>○中学校 桑高の特色明確化、中学校への情報提供</p> <p>○教育産業 桑高のニーズは何か？</p> <p>○保護者 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p>○地域社会 地域活動への参加</p> <p>○病院等 地域医療への関心</p>	<p>○大学 高大連携による情報提供</p> <p>○中学校 中高連携による意思疎通</p> <p>○教育産業 桑高のニーズに合った情報提供</p> <p>○保護者 学校と連携した家庭教育</p> <p>○地域社会 地域の教育力の活用</p> <p>○病院等 学校との密接な連携</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>【総勤務時間の縮減について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間については、やる気のある先生の気持ちもあり、ある程度しかたがない側面もある。あまり言い過ぎてやる気をなくしても困る。やらされ感で仕事をするのが良くないのでそのあたりのさじ加減が必要。無理して帰ってではなく、帰らないといけない人が帰りにくいというのが良くない。 ・勤務時間については、娘も部活動でお世話になったが、時間外勤務は、多くが部活動指導だと思うが、土日に部活動で忙しいような人を校務上で配慮するようなしくみはできないか。 <p>【大学進学に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立に加えて、関東方面の指定校推薦の現状について <p>【看護科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護科単独の時よりも他学科との中で、視野や幅を広げられるといいと思っている。衛生看護科の卒業生は、とてもいいが大学卒と比べると幅の広さ、視野の広さに課題がある。三重県内でも4大学に看護学科があるが、看護師になってからのキャリア形成の点で、幅の広さを身につけてほしい。今の看護の世界もマニュアルどおりではなく、次になにをやるかを主体的に判断しないといけない。いかに自主的、な学びをしていくかが問われる。 <p>【理数科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科の課題研究発表会について、中学校校長先生に案内してはどうか。 <p>【生徒指導に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導について、身だしなみの改善が良い一方で、日常のテストに向かう姿勢が課題。 <p>【部活動との両立に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動について、引退してから伸びる力を感じる。生徒アンケート結果をみても部活動で培ったものが大学入試へも活かされている。
	(4) 現状と課題	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度入学生対象の「大学入学共通テスト」や次期学習指導要領を見据えた準備等、各教科で、記述式問題への対応や思考力・判断力・表現力の育成や、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業への転換を図る必要がある。 ・新たな調査書など多面的・総合的評価への対応のため、1年次からのポートフォリオの記録・活用、2年次の総合的な学習の時間における探求的な活動等を導入していく必要がある。 ・理数科課題研究発表会や授業公開の中学校への案内等、中高の連携を模索していく必要がある。 <p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間縮減に向けて、夏季休業期間中における学校閉校日や毎月の定時退校日の設定、部活動の週1日の休養日の設定、会議のスマートルール化の徹底、仕事の効率化等、AKP委員会と連携しながら実効性のある改善に取り組む必要がある。また「三重県部活動ガイドライン」に記載された休養日・活動時間の設定に基づき、部活動運営を推進することが求められている。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>① 生徒の主体的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、教科指導の充実と授業改善を進めます。</p> <p>② 入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を体系的に推進します。</p> <p>③ 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組みます。</p>
	<p>① 教職員の助け合い・教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織力ある学校づくりを推進します。</p> <p>② 学校・家庭・地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、開かれた学校づくりに努めます。</p> <p>③ 総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が創造性を発揮し、情熱とやりがいを持って生徒と向き合い、指導に専念できる環境づくりに取り組みます。</p>

	<p>希望者対象補習や確認テストを行い、考査や模試後には、その結果を分析することで指導の見直しを図ります。また、各教科と連携を取り、課題を適正量にすることや習熟度別に応じた丁寧な指導を行います。(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏オープンキャンパス参加を生徒全員に促し、実際に大学を見ることで意識の高揚を図ります。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の70%以上になることを目指します。) 11月実施の進路協議会で普通科と理数科生徒が各自のキャリア(職業選択)を視野に入れた的確な文理及び志望校選択が行われているかを確認します。 7月と12月実施の看護科の実習で、その取組の中から進路意識の高揚を確認します。 <p><2学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中核の学年として、学校行事や部活動において中心的活動を促す一方、教科、分掌と連携して、層別・個別の指導を行うことで学力と高い進路意識を育てます。(◎) 2学年の課題である学習の中だるみを最小限に迎えるために、学年集会および個人面談で学習方法の見直しや家庭学習の重要性を指導します。(※) 定期考査、模試等の成績分析から指導の見直しを図りながら、教科との連携の中、時期に応じた層別の指導にあたります。(※) 考査や模試の成績分析を層別に行うことにより、層別の指導を見直します。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査を定期的実施し、学習習慣の定着を確認します。(平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。) 11月実施の進路協議会で普通科と理数科の生徒の的確な科目選択および志望校選択が行われているかを検証することで、進路意識の高揚を確認します。 11月実施の看護科の病院実習で、その取組の中から進路意識の高揚を確認します。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で試験の前後にその定着を図るために補習や再試験を実施。折に触れ、適正な課題量が保てるよう、教科間で相談を行う。ほぼ全教科で考査対策補習実施。秋以降、数学は小テスト再試験にも補習指導。看護科にも考査前質問会を実施。 オープンキャンパス参加を総合学習の一環として捉え、全員でレポートの作成まで実施。(提出率は90%) 細やかな日々の指導のお陰で学習習慣の定着は概ね図れてきたが、一部で定着していない生徒もいる。平日家庭学習時間は2時間以上が夏までは63.8%だったが、9月調査で41.3%に減少。1月調査では45.7%まで回復した。休日4時間以上も67.9%⇒52.8%⇒52.2%と推移。 協議会では各自の進路選択について検討し適切な文理選択を行なう。 きめ細やかな実習指導に加え、レポートや報告書作成を行うことで、生徒がその取組を客観的に振り返る仕組みができています。 <p><2学年></p> <ul style="list-style-type: none"> 教科、分掌と連携しながら、様々な学校行事、学年行事を進めることができた。文化祭、体育祭、修学旅行など生徒会役員およびクラス委員を中心に活動させることができた。特に、今年度から取り組んだ普通科課題研究活動については、教務、進路と連携して自主的な活動を進めることができた。改善点は多数あるものの、生徒にとっても、学校にとっても良い活動になった。学習面では、中核の学年として、中だるみを少なくすることに学年として取り組んできた。1年時より進めてきた取組の中、地道な日々の学習を進めさせる一方、要所にガイダンス、集会などを入れながら指導してきた。最近の提出物状況、直近の模試結果からは2極化の問題はあるものの、概ね効果が認められた。 直近の学習状況調査では、学年目標を達成できている生徒は、平日41%、休日31%となり、課題を残した。 来年度への科目選択は、担任面談を繰り返すことで、大きなトラブルもなく進められた。コース変更者が2名出たが、科目選択 	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
--	---	---	-------------------------------------

<3 学年>

【活動指標】

- ・最終学年として、生徒一人ひとりの卒業後の進路保障を目指し、学年集会、個人面談の実施、学年通信の発行に取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が、普通科・理数科の卒業者数の4割以上を目指します。
- ・授業や校外の研修を通して社会科学、自然科学や技術開発への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につかせます。 (◎)

<理数科>

【活動指標】

- ・継続的な教科指導や課題研究活動、校外の研修活動などへの取組を通して、理系キャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

- ・授業や校外の研修における理数科生徒の満足度の肯定的評価が80%になることを目指します。

<看護科>

- ・看護師国家試験合格100%を目標とし、思考力や判断力を養います。
- ・看護師免許の取得時に求められる実践能力を養うため、自主的、主体的な学習習慣を確立し、学び続ける姿勢を育て、学力の向上・定着を図ります。

【活動指標】

- ・日常的に思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、自らの思考の基で判断する機会を各科目の中で創出します。
- ・産業教育における事業、臨地実習施設行事、ヤングミドナ等のボランティア行事に積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にします。
- ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

- ・学習課題の充実を図り、必ず科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づく内容であるかを評価します。
- ・期日までに課題提出できる生徒の割合が100%になることを目指します。
- ・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験を基に今後の考察も記入できるようにします。

バランスも問題ないと思われる。

- ・看護科の病院実習は、事前指導も含めて丁寧な指導をしていただき、忌引きによる欠席者等あったものの、全員参加で良い実習をさせることができた。

<3 学年>

学年集会をこまめに行い、学年の意向を生徒に伝えるよう努力した。個人面談に関しては、あらかじめ設定されている面談週間に加え頻繁に行い、生徒とのコミュニケーションを図りながら進路指導の充実を図った。国公立前期と推薦の合計合格数は129名。この段階で目標の対生徒比40%を超えた(41%)。また予備校による判定Aの生徒の合格率は100%。一人一人が持てる力を十分に発揮した素晴らしい結果である。京大・東工大・阪大・名大をはじめ難関大学にも多く合格者を輩出したことに加え、地元三重大学についても40名の合格者を出した(県内現役最多)。各自が各々の学力を正確に把握し的確に出願し、合格を勝ち取った結果である。

<理数科>

4/18 理数科縦割りガイダンス(1・3年) 課題研究ガイダンス(2年)、7/20~22 理数科合宿(1・2年 琵琶湖博物館、長浜バイオ大学)、10/16 理数科校外研修(1年 名古屋科学館)、11/6 理数科校外研修(1年 名古屋工業大学)、11/13 理数科校外研修(2年 四日市オキシトン)、1/30 課題研究発表会(1・2年)などを通してキャリア教育を推進した。理数科生徒の満足度調査の結果は授業78.3%、校外研修83.7%。また、理数科2年生は、みえ科学探究フォーラム2018の口頭発表部門で最優秀賞受賞、理数科1年生は第29回全国数学コンクール優良賞受賞、東京農工大学GIYSEに参加するなど校外でも活躍する生徒が現れてきている。

<看護科>

- ・授業は、演習やロールプレイを取り入れ、グループでディスカッションし、考察し、主体的に課題に取りくむことができるよう指導した。課題は95%以上の生徒が提出すること

<総務部>

【活動指標】

- ・人権便りの年5回以上の発行、人権講演会や人権LHRの実施を通して
- ① 差別に気づく豊かな心を育みます。
- ② 人権問題を仲間と共に学び、お互いの気持ちを理解し合い、認め合えるようにします。
- ③ 問題解決やよりよい方向を目指して、協調性と積極性を持って取り組めるようにします。

【成果指標】

- ・人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが80%以上を目指します。 (◎)

<生徒指導部>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣を確立させます。また、自主・自律した社会生活が送れるよう高校在学中に指導するとともに、交通事故の防止、社会や時代の変化に伴う様々なリスクに対する危機管理能力を身につけさせます。 (◎)

【活動指標】

- ・平常授業時には毎朝8時から校門（正門、北門）にて挨拶指導、服装指導、遅刻指導、自転車通学生の安全指導を行い、社会や学校の規則、マナーを守る習慣を身につけさせます。
- ・主に定期考査期間（4～5日、年6回）に通学路にて登校指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導を行います。
- ・校内では挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1回（5日間）実施し、品格を備えた桑高生を育みます。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し、身だしなみを整える指導を行います。

【成果指標】

- ・式典や集会等はもちろんのこと、日常的に身だしなみ（正しい制服の着こなし）を整えさせることを最大の目標とします。特に女子生徒のスカート丈においては性的犯罪被害に繋がる可能性もあることから適正な長さ（膝の真ん中より下）での着用を定着させることを重点課題とします。

ができた。

- ・成績不良者には補習授業、再テスト、課題などに取り組みせ、学習への動機づけを持たせた。
- ・臨地実習では事前に打ち合わせも行き、現場の指導者と連絡を密にして学習目標達成に向けて指導を行った。
- ・キャリア教育では、外部講師を招き、接遇や就職の講座や国試ガイダンスを実施した。また卒業生と語る会では、先輩へ直接質問する機会となり 国試勉強や就職への意欲が高まった。専門領域においては医療安全や看護管理など外部講師を招いて知識を高めた。 (◎)

<総務部>

- ・人権便りは内容を精選し、4回発行。
- ・人権講演会は11月にペシャワール会の藤田千代子さんを招いて「いのち・へいわ」をテーマで実施。事前打ち合わせを密に行うことの大切さを感じた。
- ・3年生は「統一応募用紙」についての人権LHRを体育館で実施。班に分かれ討議・発表を行なった。歴史的背景についての理解を深めることが今後の課題である。 (◎)
- ・1・2年生は「男女共同参画社会」の形成について考える人権LHRを各HRで実施した。班に分かれ討議・発表を行った。概ね女性差別の実態やこの問題について考えていくことの重要性を認識できていたが、当事者意識を高めることが今後の課題である。

<生徒指導部>

- ・始業式や終業式の際に学期で気になった事や改善点を話し、注意を促すことができた。
- ・平常授業時には、ほぼ毎朝、校門（正門、北門）に立ち、生徒への声かけを数多く行った。それに加え「Formal Week」や定期考査期間中の登校指導を根気よく行ったおかげで、挨拶を大きな声でしてくれる生徒が昨年より多くなり、正しい制服の着こなしができるようになった。また遅刻寸前の生徒も「カウントダウン指導」を大きな声で行うことにより、校門を通過してから教室まで走って行く生徒が増えた。自転車の乗り方についてはまだまだ課題はあるが、安全に乗ろうとする気持ちが出始めている。

<進路指導部>

- ・キャリアデザインに基づいたコース選択や志望校の決定をし、第1志望校の合格を実現します。
- ・大学入試共通テスト(以下「新テスト」)の導入など受験環境の変化の対応に向けた体制づくりを行います。

【活動指標】

- ・校内大学説明会の充実を図ります。
- ・キャリア教育の視点からの進路指導を行います。(◎)
- ・校内大学説明会の充実や1年生の文理選択と2年生の科目登録前にキャリア講演会を開くなど、生徒の進路選択をするうえで有効な材料を提供します。
- ・難関大の中でも希望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施します。
- ・受験環境の変化についての情報を教職員や保護者に整理して伝えるとともに、変化の対応に向けた体制を整備します。(◎)

【成果指標】

- ・生徒アンケート結果において「満足」への回答が7割以上。
- ・国公立大学現役合格者数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上。→5年連続達成
- ・名古屋大学現役合格者数が15名以上。(◎)
- ・難関国立10大学と医学部の現役合格数が20名以上。
- ・3年生4月調査の第1志望校に、現役で合格した生徒が普通科・理数科卒業生数の2割以上。
- ・3年後の実施の新テストに向けて、①民間の英語検定試験への対応、②多面的・総合的評価への導入への対応、③思考力・判断力・総合力による授業改善の実践例等の情報提供の3点の実現。(◎)

・年3回全職員体制で実施している頭髪服装指導では、軽微な違反(爪の伸びすぎ、校章やスカーフ忘れ等)はあるものの、パーマや染色といった頭髪加工やピアスといった継続指導が必要な生徒は年間1~2名と減少傾向。

・昨年度に引き続き重点的に行った正しい制服の着こなし指導については、女子生徒のスカーツ丈が校則通りにほぼなりつつある。このまま気を抜かずに、生徒指導部が主体となって生徒自身が正しい制服の着こなしを自らできるように指導していきたい。

<進路指導部>

【達成状況・評価結果】

- ①1年生は10月に三重大から5学部の講師を招き、普通科・理数科全員参加の分科会形式でキャリア講演会を実施した。
- ②2・3年生は、7月に名大から工学部化学生命工学科、理学部、法学部でキャリア講演会を実施し、参加者はそれぞれ69, 31, 30名であった。(◎)
- ③6月には1~3年生の看護系進学希望者に6月に三重県立看護大学から講師を招き、看護職一般について講演会を開催した。参加者は10名であった。
- ④名大チャレンジサポートは、最初の96名が先頭集団としてチベーションを維持することができた。(◎)
- ⑤夏の京大見学会は1年生を中心に41名の参加があり盛況であった。
- ⑥昨年度に引き続き名大のMIRAI GSCIに7名がチャレンジしたが、最終ステージに残ることができなかった。(◎)
- ⑦1・2年生の保護者向けの進路講演会を駿台予備校から講師を招き、12月に実施した。
- ⑧国公立大、名大、第1志望校への現役合格数の達成状況は年度末に評価を行う。

【具体的取組に関する成果や課題】

- ①2・3年生向け大学説明会は意識が高い生徒が参加しており、上位を目指す層も増えてきている。続けて同じ内容にならないよう学部を変えて実施をしているが、開催日時や内容について生徒にとってより効果的なものになるように今後も計画したい。

<定時制 学習指導>

- ・「社会の変化に対応した教育活動に取り組みます。」
- ・キャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の計画を考えることで、生徒間の対話を深め、気づきの取得を促進する。限られた時間の中で多くの体験・経験をさせ自身の肯定感を育て、生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指す。(◎)

【活動指標】

- 1年生：基本的な生活習慣の確立。
- 2年生：進路実現に向けて勤労と学業の両立。
- 3年生：将来の進路実現に向けて自分探し。
- 4年生：コミュニケーション能力の向上と進路実現に向けて自身で行動する力。

- ・1, 2年において国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着と向上を図り、外国籍の生徒についても日本語指導を踏まえ取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒満足度80%を目指します。
- ・基礎学力の定着について、D3からの脱出を目指します。

【活動指標】

- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。

【成果指標】

- ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。

<定時制 生徒指導>

- ・心身の成長期にふさわしい基本的な生活習慣の確立を目指し、自主・自律した生活が送れるように指導を行います。(◎)

【活動指標】

- ・無断遅刻・無断欠席をなくし、生活指導案件5件以下を目指します。
- ・挨拶運動・誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気づくりを確立します。
- ・校則はもちろん、社会のルールを厳守するよう指導を行います。
- ・生活全体を指導できるよう努めます。

【成果指標】

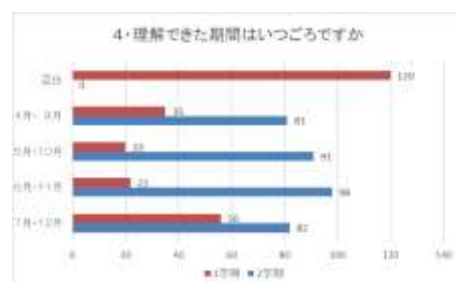
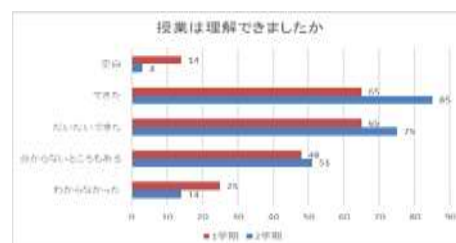
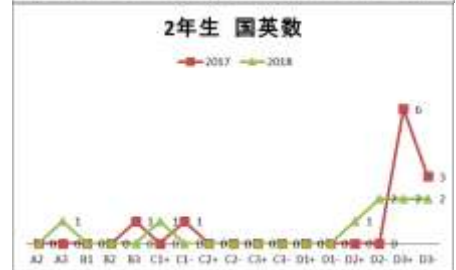
- ・5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底的に指導します。
- ・ABCを確実にできるように指導します。

②3年生を対象とする名大チャレンジサポートに加え、1・2年生を対象とする難関大ガイダンスを12月に実施した。早期に難関大学への意識を高めることを目的としているが、今後継続できるように内容を改善したい。

③新テストに向けての対応は、英語検定試験への対応など見通しが立ちつつあるが、生徒・保護者への情報提供について情報をしっかり整理したうえで周知できるように今後も工夫したい。

◎

<定時制 学習指導>



◎

	<p>A 当たり前のこと B 馬鹿にしないで C ちゃんとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先など各諸事情の報告を徹底指導します。 <p><定時制 進路指導></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身につかせます。 ・進路実現に向けたキャリア教育の実施 ・自分探しによる新規開拓。 ・外国籍生徒の就労支援 ・大学進学への指導。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の有職率 80% を目指します。 ・各教科で ICT 機器の充実について検討していきます。 	 <p>基礎学力診断テストについては学年を重ねるにつれ少しずつ成果も現れている。</p> <p>本年度、授業関心度について生徒アンケートを実施し、定時制生徒への授業改善と授業の質の向上を目指し、生徒の満足度と教員のスキル向上に役立てた。</p> <p><定時制 進路指導></p> <table border="1" data-bbox="954 712 1401 855"> <thead> <tr> <th></th> <th>在籍数</th> <th>有職数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>14</td> <td>7</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>71%</td> </tr> </tbody> </table> <p>有職率に関しては1年生については半数であるが学年が上がるにつれて労働への関心度も上がり積極的に行動するようになってきている。4年生の卒業後の進路については100%を達成している。今後もキャリア教育を充実させ就労に努めさせたい。</p>		在籍数	有職数		1年生	14	7	50%	2年生	10	8	80%	3年生	12	10	83%	4年生	7	5	71%	
	在籍数	有職数																					
1年生	14	7	50%																				
2年生	10	8	80%																				
3年生	12	10	83%																				
4年生	7	5	71%																				

改善課題

・理数科の「課題研究」、普通科の「総合的な学習の時間」における地域課題の解決に向けた探求的な学習や、衛生看護科で課題研究として行う「看護の統合と実践」を再整理し、すべての生徒が地球規模の社会問題に目を向け、その解決を目指す科学的な課題研究に取り組むことを中核とした探求的な学習への転換が今後の課題である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

重点①
組織力ある
学校づくり

重点②
開かれた学
校づくり

重点③
指導に専念で
きる環境づく
り

<総務部>

【活動指標】

- ・グループウェアの活用を呼びかけ、朝の打ち合わせや会議時間の短縮に取り組みます。(◎)
- ・企画委員会を通して分掌間の連携を図ります。
- ・同僚と相談しながら仕事を進めていける職場づくりに取り組みます。

【成果指標】

- ・朝の打ち合わせの全体連絡が8時25分までに終わるようにします。
- ・総務部が関わる会議が1時間以内に終了するようにします。
- ・職員満足度調査の人間関係の項目、「職員間の対話は活発に行われていますか」「同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか」の数値3.0以上を目指します。

<AKP>

(AKP = 「明るい桑名高校プロジェクト」委員会より)

【活動指標】

- ・職員間のコミュニケーションをより活発にすることで、目指す学校像実現に向けたアイデアを出し合い、仕事を楽しく感じられる職員連携を構築し、多忙感の解消を目指します。

【成果指標】

- ・職員満足度調査の重点項目、「職員間の対話は活発に行われていますか。」の数値3.0以上を目指します。

【活動指標】

- ・多くの職員が参加する交流の場(懇親会)を12月末に作り上げます。
- ・コミュニケーションを活発にするような企画・運営を行い、多忙感や負担感を解消します。(◎)

【成果指標】

- ・年度末に行う職員満足度調査において、平均数値が2.9以上になることを目指します。

<全体>

【活動指標】

- ・県立高等学校活性化計画に基づき「主体的で深い学びに協働して取り組む教育の充実」「カリキュラム・マネジメントを取り入れた学校教育の改善」「ICT活用による学びの充実」「大学等と連携した教育の推進」「定時制教育の充実」等に組織的・継続的に取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒アンケートの「授業理解」「進路指導の充実」「教員との対話」の肯定的評価を80%以上とします。

<総務部>

グループウェアの活用は、かなり進んだように感じるが、朝の打ち合わせは依然として慌ただしい現状である。

(職員満足度調査結果より)

- ① 自由に意見を言えるような雰囲気はありますか。
→ 数値2.7(昨年2.8)
- ② 職員間の対話は活発に行われていますか。
→ 数値2.8(昨年2.8)
- ③ 同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。→ 数値3.1(昨年3.0)

業務遂行のため同僚と相談する体制は若干進んだがようだが、膨大な業務に追われ改善のための議論ができなかったように思う。

<AKP>

・働き方改革の一環としての、定時退校日の取組をもって多忙感の解消を目指した。

・職員満足度調査「定時退校できましたか」の項目が昨年度2.1から今年度2.4に上昇。

・「職員間の対話」は今年度の数値は2.8(昨年度2.8)

・今年度の交流の場には37名が参加(全職員の41%)

・職員満足度調査の平均数値
今年度2.71(昨年度2.77)

<全体>

・生徒アンケート結果より

授業理解 86.0%

進路指導の充実 82.8%

教員との対話 80.2%

・「ユネスコスクール」はチャレンジ期間を終了し、加盟申請中。

・定時退校日を月1回実施し年間平均定時退校率は59.5%。

・部活動休養日週1回以上の年間設定率98.0%。

・1時間以内に終了する会議の年

	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成に向けて「ユネスコスクール」への加盟申請を行います。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総勤務時間縮減の取組として、定時退校日を月1日、部活動休養日を週1日、1時間以内に終了する会議を30%以上とします。(◎) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間を29年度の平均23.9時間/月から6.6時間/月以上削減します。 ・休暇取得日数の一人あたり年間平均日数を19.75日以上とします。(29年度18.75日) ・月80時間を超える時間外労働の年間延べ人数を17人以上削減します。(29年度延べ人数49人) 	<p>間割合 72.6%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間(2月末数値) 29年度 25.2時間/月 30年度 28.0時間/月 ・休暇取得日数 29年度 14.32日 30年度 14.40日 <p>※4～12月の比較数値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月80時間を超える時間外労働の延べ人数(2月末数値) 29年度 44人 30年度 60人 	◎
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の縮減と教育活動の充実がトレードオフの関係に陥ることなく、両者の実現をどう図っていくかという働き方改革が大きな課題である。 			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>【勤務時間の縮減について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日を設けることは、生徒の健康な心身の発達にとって有効だが、先生たちは多忙で、そのことが勤務時間の縮減には直接的につながっていないように感じる。難しい問題ではあるが過重労働時間を減らすために、どうすればよいかを考える必要がある。 <p>【教育活動に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが先を見据えて、どう生きていくかが大切である。地域社会と連携して、地域課題を見つけ、それをどう解決していくかを考えるような教育活動を期待している。 <p>【理数科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科課題研究発表会での内容はずいぶん進歩した。生徒たちは自分の言葉で発表することができ、面白い研究内容が多くあった。校内の発表会という位置づけだけでは勿体ないので、保護者や中学生も参加できるようにしたり、学習成果を地域に発信していく必要がある。 <p>【看護科に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験の100%合格は大変素晴らしい。衛生看護科と他学科との交流があり、良いことだと思う。英語力を高めることは医療現場でも大切なことなので、今後の課題としてほしい。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>現在、スーパーサイエンスハイスクールに申請し、年度末の結果を待つばかりであるが、目指す学校像として掲げている「桑名から 強くはばたく 人づくり」の実現に向けて、理数科、普通科、衛生看護科・衛生看護専攻科においてさらなる教育活動の充実を図り、改善につなげていく。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>年度末に働きやすい環境づくりの推進として、業務の精選等について各分掌・学年等で話し合い、所属する分掌・学年等の観点からと学校全体の観点から考え、生徒指導部や進路指導部をはじめとするところで業務改善を進めた。次年度はこのことを推進し、勤務時間の縮減につながるようにしていく。</p>